

# 名護市長選参戦記

北川邦一



## (1) 沖縄統一連事務所にて

2014年1月17日、沖縄統一連事務所に着きました(写真は事務所での私たち担当の方)。事務所では、先ず選挙活動に必要な最小限の選挙情勢を聞きました。赤旗、「琉球新報」、「沖縄タイムス」その他の新聞も在りました。石破茂自民党幹事長が16日に名護市に来て「名護市に5百億円の振興基金」構想を表明したことはビッグ・ニュースでした。初日は事務所支持拡大の電話かけをしました。17日の夕食と翌日の3食は事務所で分担者がつくってくれた食事、両日の宿泊は事務所近くの民宿「月の浜旅館」(風呂無し素泊り1泊3千円)でした。

## (2) 誇りある名護市をつくる会

名護市は人口約6万1千人で、堺市の84万人に比べて遙かに少なく、その上、名護市の面積は210平方キロメートルですが、1956年(当時「町」)の在日米軍海兵隊基地キャンプ・シュワブ設営に始まり、現在、20平方キロメートル余を米軍に占領されています。稲嶺進(いなみねすすむ)陣営の公職選挙法に基づく確認団体の名称は「誇りある名護市をつくる会」でした。私達は「住みよい堺市をつくる会」に拠って竹山市長再選を自主的に支援し、その時の標語の1つは「堺のことは堺で決める」でしたが、事務所出口には「名護のことは名護んちゅで決める」と書いてありました。このビラの見開き2、3面では「実績が証明 名護市は自立する地域へと生まれ変わったのです。この道を市長は進みます」として、具体的に、雇用と経済、福祉と医療、子育て支援の実績、及び、日本政府に屈せず、国から名護市への基地再編交付金がなくても市の一般会計予算、建設事業費、基金積立額を前

島袋市政よりも増大してきたなど、稲嶺市政 1 期目 4 年間の実績を挙げています。

また、次の施策を「2 期目で必ずやります」としています。

- 中小企業・小規模企業振興条例を活用し地元企業を支えます
- みらい 4 号館を完済させ 7 百人の雇用を増やします。
- 総合運動公園と武道館を建設、新博物館構想を推進します
- 介護保険料を割引く制度を導入します
- 北部総合医療・福祉センターの設置を推進します
- 入院・通院費の窓口払いをなくします
- 保育園の待機児童をゼロにします
- 各地区に児童館をつくります



## (2) 末松氏の政策と基地交付金

末松文信（すえまつぶんしん）陣営は、法定ビラを出しませんでした。私は 19 日の朝 9 時頃、末松選挙事務所に行き「夢と希望のある名護市をつくる会」（末松陣営の確認団体）と「スエマツ文信後援会」の 2 つが記されているビラを貰いました。それには次の「スエマツビジョン」が示されています。

定住条件の整備

国際的視野に立つ人材づくり！

国や県と連携したまちづくり！

教育・医療・福祉の徹底

中高 1 貫学校の整備

新たな基幹病院の設置

国際化・情報化に対応した バイリンガルの養成

イングリッシュタウンの整備

都市型リゾートの形成

スエマツ文信は再編交付金約 261 億円を活用して…

○学校給食費の完全無料化

○保育料の認可・認可外の軽減化

○介護保険料の軽減化を実施していきます

以上の外、このビラの裏面左半分には、「普天間飛行場の移設に関する基本的考え方」として「知事が辺野古移設を判断される際にはこれを容認する」と述べ、「偏った市政運営で市民生活をかえりみない現市政を変えよう」と書いています。また「仲井眞知事 スエマツ文信を支持」の見出しによる両氏握手のツーショット写真、その下には「スエマツ文信は私が最も信頼を置いている人です」と題する知事の文章を載せています。

更に、同面左下段には「首相『全面的に支援』 名護市長選 末松氏を激励」という平成25年12月8日付け琉球新聞記事を載せています。

なお、この末松ビラにある「再編交付金」は、「日米政府が合意した米軍再編で、新たな基地負担を受け入れた自治体に与えられる交付金。2007年度に始まった。受け入れ、環境アセスメント実施、着工といった進展に応じて支払われる。名護市には09年度までに約17億6千万円が支払われた。受け入れが進まない場合、減額や停止ができる」と説明されています（朝日新聞2013年12月12日、朝刊2面）。

以上のように、安倍政権による米軍海兵隊普天間基地の辺野古への移設案を容認して再編交付金を貰って市の「発展」を図るのか、それとも、交付金と安倍自公政権に屈せず、誇りをもって基地移設に反対し市民の平和な生活の発展を目指すのか、という市長選で、名護市民は、後者を選んだのです。

### （3）沖縄・名護の選挙の鋭さ

投票日前日十時頃から、2人で組んで宮里3丁目辺りの稲嶺支持者宅を3、40軒訪問して、一層の支持拡大を訴えました。約半分が留守で、家に居た人は稲嶺支持が殆ど、稲嶺反対を表明する人は1人もありませんでした。

帰阪後、「注目の名護市長選・現地取材（上）・新人陣営は取材拒否」を読みました。末松陣営について「候補の名前を入れたのぼり旗が、市内の各所に掲げられていた。……米軍占領下の名残で、『何でもあり』の選挙が今も続いている……。告示後には、『現金入りの封筒』の話が飛び交う」と報道しています（2014年1月16日付けwebサイト「ハンター」。中願寺純隆（ちゅうがんじすみたか）執筆）。

沖縄・名護の選挙活動は、極めて先鋭でした。

### （4）二重丸の支持者に電話

2日目の午後は、同室の10人くらいで、既に支持依頼済みで支持は確実と判断されリストに二重丸印◎の付いている人に、重ねて支持拡大依頼の電話をしました。私は概ね次のように話しました。

稲嶺支持者に石破発言で気持ちを変えるような人は滅多に無いだろうけど、決めかねている人や末松支持者の周辺には、「結局は政府の強行で辺野古に基地が造られるのなら、名護市はお金を沢山貰った方が良い、自分にも仕事や金が回ってくるかも知れない」と考える人が多少増えるだろう。私達は既に目一杯維持拡大をしてきた。競り勝つためには、貴方が既に支持依頼をしてくれた人に更に支持拡大を訴えて下さい、と。

### （5）打ち上げ式

18日午後5時半頃から1時間余り、大北5丁目交差点直近で行われた稲嶺陣営の「打ち上げ式」に参加しました。稲嶺陣営の主な指導者が宣伝カーの屋上から演説しました。打ち上げ式は末松陣営もしました。選挙戦最後の大会です。その後も両陣営の宣伝カー等、選挙活動は行われました。

## （三）観光・見学など

### （1）沖縄北部観光・見学

投票日以降21日迄、私は「この際」と、タクシーで沖縄の概ね北部巡りをして21日17時30分発のフライトで帰阪しました。運転手は、2011年の日本教育政策学会大会の翌日、「大枚をはたいて沖縄に来たからには、米軍基地や首里城、古いグスクやひめゆりの塔、平和の礎なども観ておこう」と1日の運転をお願いした下地茂雄さんで

その時、「琉球独立論」や「瀬長亀次郎は党派を超えた人気があった」など、色々話したが弾んだのでメモっていた電話番号で今回もお願いをしました。彼は2011年、「退職後は山原（やんばる）に土地を買って家を建て自給自足のよう暮らしをしたい」と言っていました。その後、タクシー運転手を続けながらコツコツ貯めたお金で土地を買い自分で家を建て畑を作っていました。今回はその家や、高江や辺野古の米軍基地ゲートにも行きました。この沖縄北部巡りについては何処かで改めて書きたく思っています。

### （2）稲嶺当選を旧友と喜ぶ

19日夜、那覇セントラルホテルで夕食を待ちながら高校・大学時代の旧友・川畑英雄君に電話をしてまもなく、彼が「今、稲嶺さんの当確が出た」と言うのを聞き、喜び合いました。20日も同様にiPhoneで高校の旧友・北田高敏君ほかに電話しました。みんな喜んでいました。

このホテルは、下地さんの口利きもあってか、朝食付き1泊5,000円、宿泊者以外は1,200円の温泉「りっかりっか湯」に入り放題でした。夕食メニューには、沖縄の方言の説明がありました。

### （3）やはり沖縄に拘りたい

帰り際、下地さんに「沖縄の南も北もざっと一周したし、先島諸島も妻と観光したので、もう沖縄には来ないだろうけど、今後ともよろしく」と言いました。けれども帰って新聞やテレビを見、またこの記事を書くため沖縄北部地区委員会に電話で問い合わせなどを行っているうちに気持ちが変わりました。

今年（2014年）2月20日の衆院予算委員会において日本維新の会の石関貴史議員に代えて安倍晋三首相は、次の通り言いました。

「現在……日米間における最大の懸案は……普天間基地の移設問題でありま（す）」

仲井眞弘多（なかいまひろかず）知事の任期は、今年（2014年）12月9日ですが、沖縄県議会は仲井眞氏の辞



職勧告を決議し、百条委員会で知事の辺野古移転容認の事情調査が始められおり、知事選の前倒しもあり得ます。  
他方、西南諸島への陸上自衛隊配備を最大の争点とした3月2日の石垣市長選では、自民公明両党推薦の現職・中山義隆氏が再選され、共産・社等ほか革新勢が支援した自衛隊配備に反対した大浜長照氏（1994年3月～2010年2月の4期石垣市長）は、及ばなかったという厳しい状況もあります。

また、今年5月11日には沖縄市長が、9月27日には沖縄県内28市町村会議員が任期満了となります。

平和と繁栄への道か、戦争の危険・破滅への道か、日本の未来の結節点と思われる沖縄・名護・辺野古への関心と関わりは、今後とも持ち続けたいと思っています。

（本稿は、日本共産党堺市城山台後援会ニュース第14号原稿として用意しましたが、3月14日発行となったニュースには、紙幅の都合その他の事情で極縮小部分しか掲載されなかったため、3月3日に提出した原稿を復元し、若干の修正を加えて後援会ニュースとは別に作成しました。）

<http://w01.tp1.jp/~sr10023764/>